

山口県内の猫と犬における *Bartonella henselae* の血清疫学調査

富田正章, 矢端順子, 富永 潔, 菅原雅俊, 橋本元秀,
岸本彦生, 福田好博, 網本昭輝, 田村佳子, 片山 淳

日本獣医師会雑誌, 57, 257~261, 2004

山口県内で飼育されている猫126頭および犬283頭における *Bartonella henselae* に対する血清中の抗体保有状況を間接蛍光抗体法により調査した。猫のIgG抗体陽性率は18.3%(23/126), IgM抗体陽性率は0.8%(1/126)であり, 犬のIgG抗体陽性率は6.7%(19/283), IgM抗体陽性率は3.5%

(10/283)であった。IgG抗体陽性率を年齢別, 性別で比較 (χ^2 検定) したところ, 猫では1歳以上4歳未満の陽性率(28.3% : 13/46)が, 1歳未満のそれ(3.2% : 1/31)より高いこと, また, 犬では雄の陽性率(9.9% : 13/131)が雌(3.9% : 6/152)より高いこと ($P < 0.05$) が明らかとなった。

2004年の劇症型溶血レンサ球菌感染症分離株について

池辺忠義, 多田有希, 登坂直規, 岡部信彦, 渡辺治雄, 平沢恭子, 田中大祐,
鈴木理恵子, 勝川千尋, 河原隆二, 富田正章, 緒方喜久代, 遠藤美代子, 奥野ルミ

病原微生物検出情報, 25, 254, 2004

劇症型溶血レンサ球菌感染症患者から分離された菌株のT血清型別とM蛋白質をコードする *emm* 遺伝子による型別を行った。劇症型溶血レンサ球菌感染症患者分離株21株のうち, T12/*emm*12が4株(19%), T3/*emm*3とT型別不能/

*emm*89が3株ずつ(14%), T1/*emm*1, T型別不能/*emm*49が2株ずつ, T28/*emm*28, T型別不能/*emm*58, T6/*emm*6, T25/*emm*75, T型別不能/*emm*78, T型別不能/*emm*81, T型別不能/*emm*91がそれぞれ1株ずつであった。